

Mi Vida en México

あけましておめでとうございます。メキシコで年越しを迎え、このプログラムもあと、7か月となりました。2023年もメキシコで沢山の経験をレポートを通してお伝えできればと思っています。本年もよろしく願いいたします。

12月初旬にあった学校の期末試験を終えて、約1ヶ月の休暇期間を過ごしました。普段より時間がある分、旅行に行ったり、色んな人と話したりすることができました。

海外ならではのちょっと面白い経験

旅行について書く前に、休暇期間に入ったばかりの頃にあった少し興味深い出来事を書きたいと思います。

朝寝していると、ホストマザーが急に部屋のドアを叩いて私の名前を呼んでいました。普段、ホストマザーが部屋のドアをノックしてくることなどないので、珍しいなと思いながら部屋を出ると、すごい勢いで何かを言っていました。寝ぼけていたので何を言っているのか聞き取れず、聞こえたのは“calle”

(通り) “temblar” (震える) という単語だけ。私のリアクションを待つ前にホストマザーは家の外に出ていきました。

数分後、ホストマザーが家に戻ってきたので、何があったのか聞くと、「地

震があった」とのことでした。後で調べてみると震度1程度。近所では警報音が流れ、多くの人が家の外に避難したそうです。日本ではこのくらいの揺れでは何もしないことを言うと、ホストマザーは驚いていました。逆に私はメキシコ人が震度1の揺れに気づいていたことに驚きました。滅多に地震が起きないメキシコだからこそ経験できた出来事でした。

グアダラハラ、グアナファトでの再会

12月中旬には、1週間ほどグアダラハラとグアナファトに旅行に行きました。メキシコシティとは異なる雰囲気や街並みも見られ、グアダラハラのテキーラ村、グアナファトのピピラの丘など満喫しました。

その旅行中に広島と縁がある3人のメキシコ人と再会することができました。

1人目は、2017年に広島東洋カープでプレーしていたラミロ・ペーニャ選手。現在はメキシコのリーグでプレーしており、グアダラハラでの試合に来るという情報を聞き、観戦に行きました。広島で一度サインをもらってからペーニャ選手のファンである私は、機会があれば、話したいと思っていました。試合前の練習中、ペーニャ選手がカープのユニフォームを着た私に気づいてくれ、快く写真撮影に応じてくれました。広島で一度会った時のお礼と、広島か

ら来たということを本人に伝えることができました。

2人目は、クラブレオンのユース選手の Irving 選手に会いしました。彼は、昨年夏に行われた「広島国際ユースサッカー」で来広し、そこで一度会いしました。グアナファトの街を歩きながら、広島の思い出やメキシコの生活のこと、サッカーのことなどを話しました。

3人目は、Luis Enrique さんです。広島大学で留学経験があり、その後3年ほど広島に住んでいた方です。私にスペイン語を教えてくださっている中島エバさんの紹介で知り合い、広島にいた時は毎週お互いに日本語とスペイン語を教え合っていました。Luis さんはグアナファトに住んでいたこともあったそうで、ピピラの丘やグアナファトの歴史など、街の様々な所を案内してくれました。

ペーニャ選手と写真を撮った時には、ペーニャ選手本人の口から「シャシン、オネガイシマス」と言ってくれたり、Irving 選手は広島で食べたお好み焼きと刺身が美味しかったと話していました。そして、Luis さんのガイドは日本語を交えたものでした。3人ともメキシコに住んでいるものの、広島での思い出や言葉など忘れずにいてくれるようでとても嬉しく感じました。広島で会った方々と遠く離れたメキシコで再会できたという感動と同時に、人との繋がり的重要性を実感することとなった旅行となりました。



グアナファトのピピラの丘



元カーブのペーニャ選手



クラブレオンの Irving 選手



Luis Enrique さん

メキシコで過ごしたクリスマスと年越し

メキシコで過ごしたクリスマスと年越しでは、また日本と違う雰囲気を経験できました。

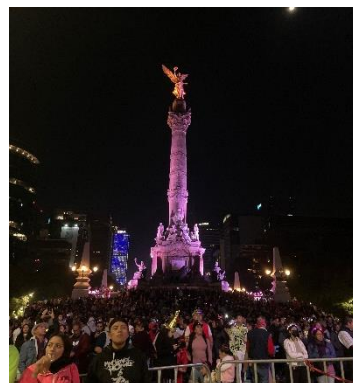
メキシコに来た 10 月から 11 月は死者の日ムード。11 月からはサッカー W 杯で盛り上がったので、12 月はクリスマスで盛り上がるのだろうと考えていました。しかし、街全体はクリスマス一色となっているものの、これまでの盛り上がりとは一味違いました。特に、12 月 24 日のクリスマスイブはどこに行ってもお店は閉まっている状態。クリスマスマーケットですらも 19 時頃には片付けをしており、外出している人は非常に少なかったです。知り合いのメキシコ人による

と、クリスマス（特にイブ）は家族で過ごして祝うことを大切にしているとのことでした。また、12月25日にプレゼントを渡すのではなく、1月6日、東方の三博士が贈り物を持ってイエスキリストを訪ねたとされる「東方の三博士の日」に渡す風習があるそうです。6日の朝起きると、ホストマザーが私の部屋の前にプレゼントのチョコを置いていてくれました。カトリック教徒が多い国ならではのクリスマスを味わうことができました。

一方で、年越しはイメージしていた通りの盛り上がりでした。大晦日23時頃にメキシコシティの大通り Reforma に行くと、歩行者天国となっており、大勢の人と音楽で賑わっていました。ステージとそれを映す大きなスクリーンが複数あり、全員がそれらを見ながら、歌ったり踊ったりして年越しの瞬間を待ちました。カウントダウンをして、年越しを迎えた瞬間は、手に花火を持つ人、ブドウ（メキシコでは新年を迎えると同時に12粒のブドウを12個の願い事をしながら食べる習慣がある）を食べる人とそれぞれ思い思いに過ごしていました。その後、1時間、ひたすら音楽に合わせて歌って踊り続けるというなんともメキシコらしい時間でした。



12月24日のクリスマスマーケット



大晦日の様子

メキシコに来て3ヶ月となりましたが、まだまだ知らないこと、イメージとは違ったことが多く、もっと色々な経験をしてメキシコの文化を学んでいきたいです。1月も気を引き締めて、しっかりと勉強していきたいと思います。